

インターバンクの声（2016年1月22日）

昨日、東京市場の後半からロンドン市場の朝にかけ、ドル円は117円台中盤から116円台中盤へ1円ほど円高が進み、前日どうにか止まった116円割れの水準をもう一度試しに行くような円買いの勢いが感じられた。最近の株価と為替の動きについては、関連性が強い弱いの議論はあるにせよ、後場開始時に300円超上昇していた日経平均が、終了時点で約400円安まで売り込まれたとあっては、当然とも思えるような反応だった。しかし、欧州株が反発して始まったことや、市場が欧州中央銀行（ECB）の金融政策決定待ちのモードであることも手伝って、どうにか117円前後に戻ってくれた。結局、ロンドン市場からニューヨーク市場にかけて、117円台の中盤から後半へと円が売り戻される展開となったが、昨夜この時間帯の主役は、理事会後の会見で3月の金融緩和を匂わせたドラギ総裁の発言によって、高値から安値まで140ポイントほど下げたユーロだった。そのユーロも欧州株が全般に2%ほど上げて終わってくれたためか、100ポイントほど反発してニューヨーク市場を終えた。やはり原油価格の反発や中国経済の先行き不安が薄まらないと、為替市場の年初からのトレンドにも大きな修正は起こりにくいのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。